

【講演2】「大久野島のウサギに見られる病気と必要な対策 野田亜矢子氏（安佐動物公園）」

番号	質問	回答
1	ウサギのふんが散在していますが、踏んづけた靴底はそのまま大丈夫でしょうか？	病気等の持ち込み、持ち出しの危険性を考えると、例えば棧橋に消毒薬をしみこませたマットなどを敷くなどの対策をした方が良いと思います。
2	ウサギを管理している触れ合い動物園などでも病気の蔓延の危険性はあるのではないかと思います。大久野島の今の状態での危険性と違いはないのですか？	動物園など、ふれあいを行う場合は、行っている側に対象動物の健康管理などの義務が生じます。このため、常に健康状態やストレスの状況などを監視し、治療を行ったり環境を整えるようにしていますので、リスクは0にはありませんが、極めて低くなります。
3	これまでに来島者で発病した人はいますか。	これについては調査が行われていないと思いますので、何とも言えません。
4	手洗いで感染は防げますか。	100%にはありませんが、かなりの確率で防げると思います。
5	鳥 ウサギの感染力はないのですか。	鳥からウサギに感染する可能性のある病原体は存在します（例えばサルモネラ菌など）。
6	野生動物ではない！！（そもそも家畜ではないか？）	大久野島に生息するウサギについていえば、ペット由来の動物ではありますが飼い主がいまないので、管理されずに繁殖して増えていっている状態であり、家畜でもなく外来種ということになります。
7	野良猫対策で避妊対策プロジェクト化しているが、ウサギの適正数ということでは何か出来ないか？	野良猫に対する対策でも言えることですが、避妊去勢によるコントロールは極めて難しいです。野良猫で言えば、外から新たに野良猫が入ってこなければ効果がありますが、そうでなければ限定的です。大久野島のウサギの場合、外からは入ってくる確率は極めて低いと思われるのですが、現時点でのウサギがかなりの頭数にのぼるため、島内のウサギをすべて把握した上で計画的に実施しなければ効果はなく、現実的ではありません。
8	地権者としての国、環境省がワガゴトとして、一定の方針を出しても良いのではないか。	これについては私は環境省の職員ではありませんので、お答えする立場ではありません。 （環境省中国四国地方環境事務所より回答） 環境省は大久野島を所管する立場ではありませんが、島に生息するウサギについては所有者が存在しないことから、ウサギに関わる様々な立場の方々とともに地域の問題として方針を決めるべきと考えております。また、大久野島のウサギについては外来種であることを踏まえた上で、ウサギによって受けている恩恵と被害、地元にとって必要な観光資源であること、また動物愛護など様々なことを勘案しながら方針を考えることが大切であると考えております。
9	ウサギはクマやシカと違い危険性が少なそうなので、病気の管理だけでも良いのでしょうか？	人との距離が近い動物の管理については、その動物の置かれている環境やヒトとの関わりごとによって変わってきます。大久野島の場合、現状では人がかなり密接に触れ合っている可能性が高いので、病気のコントロールは緊急の課題であるともいえますが、それ以外にも例えば島の植生に対する影響やその他の生き物（生息しているのは目につく脊椎動物のようなものばかりではなく、昆虫やもっと細かい微生物も含まれます）への影響も十分に考慮する必要があります。

10	<p>ウサギと触れ合った後に手洗いをすれば、トレボネーマは他のウサギにはうつりませんか？また、感染拡大しない様に人間が気をつけることは何ですか？（さわる以外で何かあれば...）</p>	<p>動物との触れ合いにおいて、一番効果が高いのは、触れ合う前の手洗い、触れ合った後の手洗いです。100%うつらないとは断言できませんが、これだけでも感染をかなり防御することが可能です。また、病気自体が罹っている個体の体調や生息環境に左右されるものなので、それらを整えることが病気のコントロールにつながります。</p>
11	<p>山口大学の研究報告に基づいて、罹患率の高い病気に対する治療薬を定期的にエサに加えて与えた場合、ウサギの健康状態は改善され、維持できますか？</p>	<p>病気によって投薬する薬の内容や量が変わること、またウイルス性の疾患であれば基本的には治療薬はないことなどを考えると、あまり効果は期待できないと思われます。また、餌にまぜることにより健康な個体も薬を口にするようになります。たとえば抗生物質（細菌に対して効果がある薬）であれば、このようなことを行うと「耐性菌」の問題も起こりますので、不用意に行うべきではないと思います。</p>
12	<p>病気にかかっていると思われる個体は、処分または隔離する必要があると思うが、どうでしょう？</p>	<p>このご質問については今後大久野島のウサギをどのように考え、管理するか、という問題に直結すると考えられますので、現時点ではそうであるとも、それ以外の方法があるとも言えないと思います。</p>